病児保育協議会
NEWS
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/

第82号
2016年（平成28年）1月1日
〔発行人〕 会長 稲見 誠
〔発 行〕一般社団法人 全国病児保育協議会
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-10-7 いなみ小児科内
TEL.03-3421-4885 FAX.03-3411-4936

新年のご挨拶

一般社団法人 全国病児保育協議会 会長 稲見 誠

新年明けましておめでとうございます。

昨年の第25回全国病児保育研究大会は、杉野茂人会頭のもと、実行委員やスタッフのご努力で東京大会とそれほど変わらぬ856人の参加者があり、盛大に開催することができました。杉野会頭をはじめ関係者の皆様に心より感謝いたします。

さて、病児保育協議会が一般社団法人となり3年が経過しました。一般社団法人として社会に対する責任を全うするためには、協議会内の組織整備が必要になります。そこで、これまで会長の個人の施設で行ってきた事務局を外部委託することになりました。平成27年度は会員管理のみを外部委託し、平成28年度から事務局機能をすべて委託します。

委託先は日本小児科医会や東京小児科医会で実績のある日本小児医事出版株式会社になりました。これにより協議会内の活動（各種委員会）も、更に活性化できると思われます。

病児保育事業を行っている施設は、専門性の高い保育士・看護師をはじめ医師や栄養士といった職種を持ち、子育て支援のためのスキルは十分にあります。そこで地域の子育て支援事業の中心として、病児保育事業のみでなく、様々な子育て支援事業を行っていくこが出来るのではないでしょうか。地域の保育園・幼稚園の職員や大学・専門学校の保育科学生にたいする研修会や実習の受け入れ、保護者に対する家庭看護の教育や電話相談、さらに医療機関併設なら障がい児の一時保育（レスパイト）なども行っている施設もあります。

子ども子育て会議では、各子育て支援事業に従事する職員の研修をするように提言しています。それに伴い内閣府でも研修費の助成を考慮しています。各支部では支部研修会を積極的に行い、将来的に行政を巻き込み、協議会として研修を主導すれば、全国の協議会非加盟の病児保育室を含め、病児保育事業の質を高めて、より大きな社会貢献も出来ることになると思われます。

以上のように、病児保育施設として積極的に子育て支援事業を行い、支部活動の活性化により病児保育事業の新たな展望があるかもしれません。会員の皆様、宜しくご協力をお願いいたします。

第26回 全国病児保育研究大会 in にいがた

地域ネットワークの中の病児保育

- 会　　頭　佐藤　勇（よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり）
- 実行委員長　早川　広史（早川小児科クリニック 病時保育室カンガルー）

猿の梢を渡る如し

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　大川　洋二

新年明けましておめでとうございます。今年は申（猿）年だそうです。猿にまつわる言葉を探すと、猿も木から落ちる、見猿、聞か猿、言わ猿、猿知恵等どうも否定的で失敗に関するものが多いようです。３年前の病児保育大分大会では高崎山に勤務されていた松井氏の猿の子育てをお聞きして、むしろ私たちが忘れてしまったこと、学ばなければならないことが多いことを教えていただきました。このままいくと将来のことわざに猿に学び、ヒトに反省を促すものが出来そうです。改めて初心に帰り、子育てとはなにか、病児保育での私たちの役割とは何かを自問しなければならないようです。

昨年度から子育て関連３法の施行がはじまり、病児保育を取り巻く環境が大きく変わりました。就労支援から育児支援に目的が変わり、さらに子どもの育ちを中心に、そのための育児支援、結果としての就労支援へと病児保育の基本概念がシフトしてきております。こうした概念の変化にもかかわらず、実際の行政の動きは保育士不足をスタッフ定員の減少にて解消しようとする姑息的な対策は残念です。病児保育での３：１対応、保育所での夕方の保育士の削減など保育レベルの低下の是認は乳幼児の健全な育成どころか、身体的危険にさらす事態も生じております。病児保育を取り巻く諸問題に関して協議会の役割は重要です。

最近の日本の天候はかつてない厳しい状況で、いまだ経験したことがない豪雨や100年に１度の台風など恐ろしい表現が使われております。この原因の一つとして赤道上でぶつかる偏西風と扁東風が引き起こす上昇気流があるそうで、この現象をマッデンジュリアン振動といいます。まっすぐ上方に上がればよいのですが、昨年のように北半球に偏ると異常気象が起こるそうです。病児保育でも保育士、看護師、医師、事務スタッフのパワーがぶつかり合い、その結果偏ることなくまっすぐ上に上昇気流がおこれば今年も協議会の発展が望めるでしょう。

猿に関するいい言葉がありました。猿の梢を渡る如し。多くの問題をヒョイ、ヒョイとこなして安全安心の病児保育を行いたいと思います。

故事ことわざ辞典 昭和31年11月発行
東京堂 を参考にした。

ごあいさつ

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　永野　和子

明けましておめでとうございます。
昨年、全国病児保育協議会は、設立25周年を迎えました。

25年もの長い間、子どもたちの為に、また働きながら子育てをする保護者の為にと「病児保育」の研鑽を繰り返してこられた、諸先輩方に心より敬意を表します。

全国病児保育協議会では、小児科医・保育士・看護師・薬剤師などが、病児保育に関わる様々な専門性を発揮し、病児保育に取り組んでおります。

これは、何物にも代えがたい本会の財産であると考え、大切に受け継いでいかなければならないと考えております。その一つが、「病児保育専門士」の養成講座です。今年、３年目を迎える病児保育専門士の認定制度では、認定を受けられた方が200名を越します。この方たちが、各地で真の「病児保育」を継承して頂け

ることと期待しております。

様々な形態を見せるようになった「病児保育」ですが、これからも、子どもたちの幸せと安全を第一に、まだまだ、勉強不足の私ですが、協議会に加盟していただいている皆さまと一緒になって、「病児保育学」を極めて参りたいと思っております。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

ごあいさつ

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　佐藤　里美

あけましておめでとうございます。

会員の皆様、日頃より協議会活動にご協力いただきありがとうございます。また保育の現場では子どもたちの笑い声、泣き声に囲まれ、日々奮闘されていることとお察しいたします。ご苦労様です。

この季節になると感染性胃腸炎やインフルエンザなどの流行で、子どもたちの受け入れや部屋割りにひと苦労いたします。そのような中で先日、病児保育室に行くと違う病気をもらうことが心配、という保護者の声を聴きました。確かに病児保育室で預かる疾患のほとんどは感染症で、絶対にうつらないという保障はありません。

しかし私たちは病気について勉強し、感染予防について最大限の努力をして子どもたちをお預かりしています。このことは協議会の会員であれば自信を持って皆さんにお伝えできることではないでしょうか。

しかしそのためにも、私たちは感染予防のみならず、呼吸の観察や脱水の評価など子どもの急変に対応できる知識を確実なものとし、変化の激しい予防接種事情やヒトメタニューモウイルス、エンテロウイルスD68などといった通常の保育の現場では聞きなれない疾患などについても学ぶ機会を持ち、保護者の方からの質問にも正しい知識で答えられるようにしたいものです。そして何よりも病児保育の中心は子どもたちであり、不安を抱える子どもたちの気持ちに十分寄り添い、病児保育室に来て良かった、預けて良かったと思っていただけるよう努力していきたいと思います。

今年も研究大会やブロック研修会、関連学会や施設内の勉強会など積極的に参加し、一層質の高い保育看護を目指し一緒に研鑽を積んでいきましょう。

各種委員会の抱負

感染症対策委員会

感染症対策委員長　大川　洋二

感染症は毎年ウイルスなど病原体に関する新たな情報が飛び交い、その整理が大変です。昨年度は喘息の悪化による呼吸困難や弛緩性麻痺の症状が出るエンテロウイルスD68や感染性胃腸炎の原因となる新型ノロウイルスGⅡ-17が出現しています。新しい感染症に対して正確な情報を得て、医学的に、保育看護的に正しく対応し、むやみに怯えず侮らず、慎重に対応することが必要です。感染症対策委員会としては会員の皆様に正しい最新の情報をお届けするよう努めてまいります。

今年度の活動は例年と同じアンケート調査と新潟大会での感染症セミナーの開催です。委員講演は新委員である黒木春郎先生にお願いしました。特別講演は新潟大学小児科からパレコウイルスな

ど最新の情報を提供して頂けるようお願いしてあります。ガイドラインの検討も行い必要があれば一部改定する予定です。ガイドライン改訂への決め手となる病児保育室内感染の発症例に関しては発症後直ちにご報告をお願いします。

最近インフルエンザ、水痘、感染性胃腸炎に続いてＲＳウイルスの感染例が増加しております。インフルエンザＡ型Ｂ型同室による感染の検討についての多施設共同研究も昨年に引き続いて行います。昨年度から新しい委員が就任されていますが、今年度も新しい委員が参加される予定ですので感染症セミナー、専門士研修会講義の充実が図れることとなります。保育士の皆様も本委員会に参加されますようお願い致します。

調査研究･インシデント管理委員会

調査研究・インシデント管理委員長　**荒井　宏治**

調査研究・インシデント管理委員会は、病児保育協議会加盟施設の実態や実績の調査と各施設から報告されたインシデント・アクシデントの集積と分析を活動としています。毎年実施している実績調査は、主に稼働状況から病児保育の社会的ニーズを調査しています。実態調査は数年おきに各施設の運営状況や抱えている問題点を調べていますが、今年中に実施する予定です。これらは病児保育事業が利用者や運営者にとって、より改善されるように協議会が行政に働きかけるための重要な資料になります。

インシデント管理については、今年から病児保育におけるインシデントを把握することを目的に、全加盟施設にインシデント・アクシデントをmims（病児保育施設向けインシデント管理システム）あるいは手書きのチェックリストで報告することを依頼します。そしてこれらのデータを統合して集計、分析するシステムを開始します。それによってこれまで以上に多くのインシデントが協議会施設間で共有され、個々の施設のセーフティマネジメントの向上に還元できると期待しています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

機関誌編集委員会

機関誌編集委員長　**原木　真名**

機関誌＜病児保育研究＞は現在までに６号を発刊しました。

刊を重ねるにつれ、投稿される論文の数も多くなり、また、内容も充実してきました。本協議会の現場の保育士さん、看護師さんの意識が向上してきたことの現れと言えると思います。病児保育専門士の資格をとるなど、様々な研鑽をつんだスタッフが増えてきたためでもあるでしょう。

病児保育の現場の真剣で地道な取り組みを発表することはとても大切なことです。行政をはじめ広く一般の皆様に、営利目的などでない＜子どもたちのための病児保育＞の取り組みを知ってもらうことは、本協議会が目指す病児保育が拡がっていくための大切な礎となっていきます。

皆さまの積極的な投稿をお待ちしております。

病児保育専門士認定委員会

病児保育専門士
資格認定委員長　永野　和子

資格認定委員会では、「病児保育専門士」の認定に関わる、講習会の開催、口頭試問の実施、認定証の発行など様々な業務を行っております。

25年度から始まった、「病児保育専門士」の認定制度で認定を受けた方は、200名を越しました。

病児保育の専門性を高め、さらに家庭での看護方法などの研鑽を積み、家庭での「家庭看護」へつなぐことにより、病児保育を通して究極の子育て支援を行うことのできる保育士・看護師「病児保育専門士」の仲間が、年々増えていっていることをとても喜ばしく思います。

また、講習会で知り合った仲間たちとの交流により、講習会時のみならず、各地で意見交換がなされているようで、「子どもたちの健康と幸せの為に」という、協議会のモットーそのものの専門士が活躍しているようです。

日本で唯一の病児保育に従事する保育士・看護師に対する専門的な知識を持つ「病児保育専門士」の養成を質の高い講習会で行ってきたいと考えております。

※28年度の病児保育専門士講習会は、東京で開催する予定です。
詳しくは、後日お知らせいたします。

研修委員会

研修委員長　帆足　暁子

研修委員会では、新たな委員を迎え、2016年にはさらに基礎研修の充実とステップアップ研修、及び資格認定研修講座の内容の検討、出張講座の依頼等のこれまでの研修委員会での活動を踏まえ、より専門性の高い研修を保障していくための研修システムのあり方を構築して参ります。また、今年は、活発な委員会活動を実現していくためのあり方等をも検討したいと考えております。現在、研修委員は保育系・看護系・医師系等約13名の委員構成となっております。この委員構成は、これまでになく豊かな専門領域の委員構成です。その良さを最大限に活用すべく、特に、保育系・看護系の委員による小グループ活動を活発化することにより、研修委員会自体の専門性をも高めていくことが実現できると考えています。

全国研究大会におけるステップアップ研修の内容につきましては、担当事務局のテーマとは重ならないことを前提に、2016年からは保育系グループと看護系グループが交代でテーマの候補を選択することになり、バランスのとれたステップアップ研修になると考えております。ご期待下さい。

また、「病児保育専門士（保育士）（看護師）」の認定講習につきまして、2015年より保育系委員と看護系委員が中心となり、研修委員会が担当している講座内容の精査を行って参りましたが、問題が山積しており、今年度も継続して積極的に行って参ります。

研修委員会では、交通費・宿泊費は研修委員会負担という、基礎研修の出張講座を行っております。2015年は２箇所からの申請がありました。しかしまだ周知不足というご意見も頂きました。今後もホームページや研修会会場等でのアナウンスを行って参りますが、積極的にどんどん申請をして頂きたいと考えております。

最後に、できるだけ多数の方々のご意見を反映しながら、皆さまに還元できる研修の在り方を目指していく所存です。是非、研修委員会に多数のご意見をお寄せ下さい。お待ちしています。

倫理委員会

倫理委員会委員長　**木野　稔**

当協議会では、一般社団法人化にともない倫理委員会が設置されています。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が厚労省から出されていますが。病児保育においても、研究および調査もしくは発表等を行うにあたって、倫理的な問題がないことを確認するよう求められています。施設に倫理委員会が設置されていない場合や、多施設で共同研究を行う際には、協議会の倫理審査委員会で行うことになります。倫理委員会規程、倫理委員会審議申請書はＨＰからダウンロードできるようにしていますが、倫理申請が必要かどうかの相談も受け付けますのでよろしくお願いします。

広報委員会

広報委員長　**藤本　保**

昨年は皆様のご協力を得まして協議会ニュースを年５回、滞りなく発行することができました。広報委員会独自の成果ではありませんが、保育園型プロジェクトチームのニュースも同封してお送りできるようになりました。各県支部からも研修会や活動報告が積極的に寄せられるようになり、協議会組織の活性化を喜ばしく感じているところです。

病児保育協議会の加盟施設や病児保育を志す全国の人たちが一堂に会するチャンスは年1回の研究大会。加盟施設は施設形態も運営主体もさまざま。協議会ニュースは会員施設を情報でつなぎ、病児保育の本質と協議会の存在意義を内外問わず広く知ってもらう役割を担っています。

広報委員会では、読みやすい紙面構成、皆様の日常活動に役立つコンテンツ企画の見直しなどを行い、協議会未加盟の施設にも興味を持ってもらえるような協議会ニュースを目指します。また、協議会ホームページは常にアクティブなサイト運営になりますよう最新の情報掲載に努めてまいります。ニュース構成やサイト運営には皆様から寄せられる感想やご要望が大切な検討資料になります。どうぞドシドシ広報委員会にお知らせください。

編集に心たぎらせる委員一同、今年も皆様とのつながりをいちばんに、協議会の広報活動に力を尽くします。

保育園型プロジェクト

保育園型ＰＴリーダー　**髙橋　広美**

「お友だちっていいね」

まり（他園５歳児）りか（砂原保育園０歳児）

初めて利用するまりは不安な顔つきだ。遊びに誘うが慣れていないので、さびしそうにしている。りかは０歳児であるが砂原の園児なので保育士や部屋にも慣れていて、保育士を相手にままごとや絵本を読んでもらったりして楽しそうだ。ポツンとしている

まりが気になり、顔をのぞきこんでいる。

保育士はまりに「一緒にあそぼう」とそっと声をかけ膝に乗せた。そこにりかもやって来て二人で膝の上に座った。二人で見合ってにこり。

２日目。今日もまりとりかの二人だ。まりはりかの手を引いて遊びに誘っている。二人は昨日よりもずっと楽しそう。

午後まりの熱が上がってきた。布団に横になっているまりをりかは心配そうにのぞきこむ。そして、自分も一緒にごろんと横になって顔を見つめている。まるで“だいじょうぶかな？つらいね”と語りかけているようだ。

病後児保育では、０歳児から５歳児の子どもたちが同室で過ごす。そこでは様々な年齢の子ども達の関わりが見られる。

「見守り」

けん（砂原保育園１歳児）

利用初日。けんは活気がありよく遊んでいたが、午睡を十分にしなかった為に熱が上がってしまった。

２日目。平熱になったものの昨日の様に午睡をしそうにも無かったので、気分転換に保育士と一緒に園庭を散歩したり、普段過ごしている保育室を外から眺めたりして過ごしていた。その時、その様子を見かけたけんの担任は、「明日はお部屋に戻って来てね。みんな待っているよ。」と声を掛けた。けんは嬉しそうに頷いた。そして病後児室に戻るとあっという間に寝入った。

保育園併設は多くの職員に見守られている。在園児も他園児も関係なく、職員に声を掛けてもらったり、あやしてもらったりする事も多い。

また、保育園の友だちが目に入るだけでも安心して過ごすことができるのだ。

－ お詫びと訂正 －

第81号のニュースに、下記の誤りがございました。訂正させていただくと共に、関係者の皆様に、深くお詫び申し上げます。

【香川県支部定期総会】２ページ

１.（誤）西岡敦子先生（常任理事）から「病児保育の現状と未来」→（正）（理事）

２.（誤）「病児保育室における遊びの検討」三保保育師（西岡医院）→（正）長尾保育士

平成26年度
病児･病後児保育の実績調査にご協力ください!!

ニュース82号に同封しております、「平成26年度 病児・病後児保育の実績調査」は、省庁等に病児保育の実態を説明するに当たり、とても重要な資料になります。

同封の文章をお読みいただき、インターネット又は、ＦＡＸにてご回答いただきますようお願い申し上げます。

役員名簿及び委員会構成は、次号にて掲載いたします。

一般社団法人全国病児保育協議会　総会議事録

日時　平成２７年7月１９日（日）１７：５０～１８：３０
会場　ホテルニューオオタニ熊本　おしどり
出席　理事：稲見　誠、大川　洋二、永野　和子、佐藤　里美、荒井　宏治、
綾田　敬子、木野　稔、佐藤　勇、杉野　茂人、高橋　広美、西岡　敦子、
羽根　靖之、原木　真名、藤本　保、福富　悌、帆足　暁子、松田　幸久、
宮崎　豊、向田、隆道、米倉　順孝、横井　透、吉田　雄司
監事：青木佳之、二宮剛美
顧問：帆足英一
名誉会員：井崎　和夫、山田　静子、鈴木英太郎
事務局：池田光江、山西行政書士事務所　山西宏樹

１）会長挨拶

会議開催に先立ち、稲見会長から挨拶があった。

２）議長の指名

定款第１７条の定めにより、会長稲見誠が議長に就任した。

３）定足数確認および議事録署名人指名

議長の指示により、事務局から、社員総数４８名中、本日２４名出席、委任状出席１４名、計３８名の出席により、本会議が定足数を満たし適法に成立している、との報告があった。

次いで、定款第２１条第２項の定めにより、本総会の議事録署名人を選任する必要がある旨を述べ、原木真名、羽根靖之の２名を提案し、議場に諮った結果、満場一致で承認された。

４）審議事項

第１号議案：平成２６年度事業報告の承認を求める件

議案書に基づき、各担当理事が平成２６年度事業報告の内容について説明を行った。内容は議案書の通り。

① 研修委員会（帆足暁子委員長）
② 感染対策委員会（大川委員長）
③ 調査研究・インシデント管理委員会（荒井委員長）
④ 倫理委員会（木野委員長）
⑤ 広報委員会（藤本委員長）
⑥ 機関誌編集委員会（原木委員長）
⑦ 資格認定委員会（永野委員長）
なお、業績単位の詳細表に関する変更に関する補足説明があった。
⑧ 保育園ＰＴ（高橋リーダー）

議長が議場に諮った結果、満場一致で可決承認された。

第２号議案：平成２６年度決算報告の承認を求める件

議案書に基づき、議長が決算報告（比較損益計算書、事業費の内訳書、比較貸借対照表、財産目録）の内容について説明を行った。次いで、二宮剛美監事が監査報告を行った。
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第３号議案：事務局外部委託の承認を求める件

議案書に基づき、議長は概要と平成２７年度の委託費について説明を行った。
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。内容は別紙議案書の通り。

第４号議案：定款変更の承認を求める件

議長は、第３号議案の承認に伴い、当協議会の事務局業務を日本小児医事出版社へ委託するにあたり、当協議会の主たる事務所を、同社の所在地へ移転させる必要がある旨を述べ、そのために当法人の定款の一部を下記の通り変更したい旨を述べた。

（変更前）第２条　この法人は主たる事務所を東京都世田谷区へ置く。
（変更後）第２条　この法人は主たる事務所を東京都新宿区へ置く。

議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。
議長は、昨日開催された理事会において、本総会で第３号、第４号議案が承認されることを前提として、当協議会の主たる事務所は８月１日をもって東京都新宿区西新宿五丁目２５番１１号へ移転する旨が承認された旨の説明を行った。

第５号議案　定款施行細則及び選挙細則の承認を求める件

議長は、法人の運営上、定款施行細則及び選挙細則を設ける必要がある旨を説明した。加えて、現状を踏まえ、本件は継続審議としたい旨、代議員選挙が現実的に不可能な場合は、支部長および理事を代議員として選出することを含め、理事会へ一任願いたい旨を述べた。
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第６号議案　平成２７年度事業計画および予算案の承認を求める件

議案書に基づき、各担当理事が、平成２７年度事業計画の内容について説明を行った。
内容は議案書の通り。

① 研修委員会（帆足暁子委員長）
② 感染対策委員会（大川委員長）
③ 調査研究・インシデント管理委員会（荒井委員長）

④　倫理委員会（木野委員長）
⑤　広報委員会（藤本委員長）
⑥　機関誌編集委員会（原木委員長）
⑦　資格認定委員会（永野委員長）
　なお、平成２７年度の講習会は、東京会場で実施する旨、補足があった。
⑧　保育園ＰＴ（高橋リーダー）
⑨　マニュアル改訂ＰＴ（大川リーダー）

次いで会長が、平成２７年度予算案の説明を行った。
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

５）事務局より報告
議案書に基づき、議長は報告内容について説明を行った。

以上をもって、本日の議事を終了したので議長は閉会を宣言した。
上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第２１条のとおり会長及び議事録署名人２名が次に記名押印する。

平成２７年７月１９日

議事録署名人　　会長・議長　　稲見　誠

議事録署名人　　羽根　靖之

議事録署名人　　原木　真名

比較損益計算書

自 平成26年 6月 1日

至 平成27年 5月31日

科目	予算額	決算額	差異	執行率
【経常損益の部】				
経常収益	37,981,700	36,178,972	-1,802,728	105.0%
[事業収益]	[37,978,200]	[35,999,517]	[-1,978,683]	105.5%
(会費収入)	(13,640,000)	(13,771,000)	(131,000)	99.0%
入会金	420,000	332,000	-88,000	126.5%
年会費	13,120,000	12,912,000	-208,000	101.6%
賛助会費	100,000	527,000	427,000	19.0%
(書籍販売)	1,738,200	1,856,933	118,733	93.6%
(広告収入)	500,000	250,000	-250,000	200.0%
(資格認定収入)	2,100,000	2,215,000	115,000	94.8%
(全国研究大会)	20,000,000	17,906,584	-2,093,416	111.7%
[財務収益]	[3,500]	[179,455]	[175,955]	2.0%
受取利息	3,500	2,847	-653	122.9%
雑収入	0	176,608	176,608	

科目	予算額	決算額	差異	執行率
経常費用				
[事業費用]	**[37,745,000]**	**[35,140,247]**	**[-2,604,753]**	**93.1%**
(全国研究大会)	(20,000,000)	(18,400,551)	(-1,599,449)	92.0%
(研修委員会)	(400,000)	(246,303)	(-153,697)	61.6%
(広報委員会)	(1,600,000)	(1,918,370)	(318,370)	119.9%
(機関誌委員会)	(100,000)	(23,767)	(-76,233)	23.8%
(調研・ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ委員会)	(400,000)	(486,688)	(86,688)	121.7%
(ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ管理ｼｽﾃﾑ運用支援費)	(1,250,000)	(1,166,400)	(-83,600)	93.3%
(感染症委員会)	(200,000)	(480,382)	(280,382)	240.2%
(資格認定委員会)	(1,000,000)	(2,359,765)	(1,359,765)	236.0%
(倫理委員会)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(保育園PT)	(100,000)	(98,997)	(-1,003)	99.0%
(マニュアル改定PT)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(自己評価PT)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(事務局)	(12,395,000)	(9,959,024)	(-2,435,976)	80.3%
印刷費	8,550,000	6,424,979	-2,125,021	75.1%
旅費交通費	1,000,000	659,270	-340,730	65.9%
通信費	200,000	388,281	188,281	194.1%
租税公課	20,000	10,433	-9,567	52.2%
事務用品費	150,000	9,829	-140,171	6.6%
広告宣伝費	25,000	21,600	-3,400	86.4%
支払手数料	2,300,000	1,286,292	-1,013,708	55.9%
会議費	150,000	447,336	297,336	298.2%
雑費	0	16,000	16,000	
支部研修会費	500,000	695,004	195,004	139.0%
経常利益金額	**236,700**	**1,038,725**	**802,025**	**438.8%**

科目	予算額	決算額	差異	執行率
[経常外収益]	[3,000,000]	[4,368,704]	[1,368,704]	145.6%
期末書籍棚卸戻入益	3,000,000	4,368,704	1,368,704	145.6%
[経常外費用]	[1,513,193]	[1,513,193]	[0]	100.0%
期首書籍棚卸繰入損	1,513,193	1,513,193	0	100.0%
経常外利益金額	1,486,807	2,855,511	1,368,704	192.1%
税引前当期純利益金額	1,723,507	3,894,236	2,170,729	44.3%
法人税等	1,100,000	1,780,700	680,700	161.9%
当期純利益金額	623,507	2,113,536	1,490,029	339.0%
前期繰越額	5,609,950	7,774,887	2,164,937	138.6%
次期繰越額	6,233,457	9,888,423	3,654,966	158.6%

監査報告書

一般社団法人　全国病児保育協議会

会長　稲見　誠　殿

平成２７年７月１２日

監事　二宮剛美

私　監事の二宮剛美は、定款第２５条により平成２６年６月１日から平成２７年５月３１日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。

その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

理事及び事務担当者と意思疎通を図り、重要な会議である理事会及び常任理事会に出席し、必要に応じ説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

２　監査意見

一　事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二　理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三　貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認めます。

以　上

監査報告書

一般社団法人　全国病児保育協議会

会長　稲見　誠　殿

平成２７年７月１２日

監事 青木佳之

私　監事の青木　佳之は、定款第２５条により平成２６年６月１日から平成２７年５月３１日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。

その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

理事及び事務担当者と意思疎通を図り、重要な会議である理事会及び常任理事会に出席し、必要に応じ説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

２　監査意見

一　事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二　理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三　貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認めます。

以　上

第26回 全国病児保育研究大会 in にいがた

大会のごあんない

第26回全国病児保育研究大会を平成28年7月17日（日）18日（月：海の日）の両日、新潟市「朱鷺メッセ：http://www.tokimesse.com」で開催いたします。

大会テーマを「地域ネットワークの中の病児保育」として、様々な子育て支援と連携し、さらに地域に根付いたシステムとして病児保育が運用されることを提案したいと思います。特別講演、教育講演とともに、本研究大会の特色でもある参加型企画「ワークショップ」も多数準備を進めています。ワークショップでは、地域性をいかして、新潟で子育て支援に関わっている方々にもリーダーをお願いし、企画をいただきました。病児保育の関係者はもとより、子育て支援に関心のある多くの方々のご参加をお待ちしています。

開　催　日：平成28年7月17日(日)18日(月:海の日)
会　　場：朱鷺メッセ(新潟市)
大会テーマ：「地域ネットワークの中の病児保育」

会　　頭　佐藤　　勇(よいこの小児科さとう、病児保育室よいこのもり)
実行委員長　早川　広史(早川小児科クリニック、病時保育室カンガルー)

大会ホームページ:http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2016/
研究大会Facebook:https://www.facebook.com/daycareforsickchildrenniigata

会頭企画シンポジウム
連携する子育て支援（仮題）

特別講演
1）「うつる（感染する）」を考える（仮題）　斎藤　昭彦（新潟大学小児科）
2）病児保育の今昔リレー講演　宮田　章子（さいわいこどもクリニック）
金原　洋治（かねはら小児科）

教育講演
1）小児の生活習慣病（仮題）　原　光彦（東京家政学院大学）
2）こどもの目のお話（仮題）　鈴木　武雄（鈴木眼科吉小路）
3）こどもののど･はな･みみのお話し(仮題)　工藤　典代（千葉県立保健医療大学）
4）食物アレルギーのヒヤリ・ハット　宇理須厚雄（前藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院院長）

市民公開講座　子どもの事故予防
子どもにケガは大切。でも、命はしっかり守る！　掛札　逸美（保育の安全・教育センター）

ワークショップ
子どもの遊び、親支援、他職種対応、BPプログラム、病児保育専門士向けなど、
地元のリーダーを中心に多数準備しています。

【研究大会事務局】
早川小児科クリニック 病時保育室カンガルー
〒950-2015 新潟市西区西小針台2-1-5
TEL 025-234-5650　FAX 025-234-5655
E-MAIL:26zenbyounig@hachicl.jp
（ご連絡はできるだけe-mailでお願いします）

【運営事務局】
株式会社 日本旅行 新潟支店（担当 佐藤　豊）
〒950-0087 新潟県新潟市中央区東大通1-3-8
明治安田生命ビル1F
TEL 025-248-1013　FAX 025-248-6167
E-MAIL:yutaka_sato@nta.co.jp

編集後記

新年号として、会長はじめ各委員長抱負を掲載いたしました。究極の育児支援としての「病児保育」の輝かしい1年に期待して、協議会活動へのご協力をお願いいたします。
（広報委員長　藤本　保）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先
一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会
担当：藤　本　　保
〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院
FAX.097-568-2970
E-mail:byouji@oita-kodomo.jp

Printed by AIKOHA